

431 体外受精-凍結胚・融解移植法の 着床に及ぼす要因

名古屋市 成田病院

上條浩子、伊藤知華子、安田由紀子、浅井正子、
成田 収

〔目的〕 体外受精における余剰胚の凍結保存-融解胚移植法は多胎の予防、妊娠率の向上に有用である。今回、凍結胚・移植周期における着床率を婦人の年齢、移植周期の内分泌動態から検討を加えた。

〔方法〕 最近1年間に凍結、融解を行った73症例、94周期、219胚を対象とした。凍結胚移植は自然排卵周期、clomiphene周期、clomiphene-hMG周期、卵巣steroid投与周期にて行った。凍結胚移植周期と刺激採卵周期における胚移植時の血清E₂、P₄値を比較した。〔成績〕 ①219個の凍結胚を融解し、生存率87.7% (192/219)、割球の部分的損傷を受けた胚が33.3% (73/219)にみられた。対移植周期妊娠率は29.8% (28/94)、着床率は17.7% (34/192)であった。②婦人年齢による妊娠率は29才以下、30-34才、35-39才、40才以上でそれぞれ36.7% (11/37)、29.7% (11/37)、26.1% (6/23)、0% (0/4)であった。③胚移植時の妊娠率は、自然排卵周期で33.3%、clomiphene周期で25.0%、clomiphene-hMG刺激周期では28.6%、卵巣steroid投与周期で18.8%と、卵巣steroid投与周期で低い傾向にあった。④胚移植時の血中E₂、P₄値は凍結胚移植周期でE₂=137.6±82.7pg/ml、P₄=32±17ng/ml、E₂/P₄=4.96±4.1であったのに対し、刺激採卵周期ではE₂=1939.2±1228.2pg/ml、P₄=166.8±66.1ng/ml、E₂/P₄=9.5±4.3であった。⑤卵細胞質内精子注入法 (ICSI) 受精卵の凍結胚26個のうち融解後23個 (79.3%) が生存し、15周期に胚移植し4例 (26%) が妊娠した。①の成績と比較し、ICSI受精卵の凍結障害は著明ではなかった。〔結論〕 刺激採卵周期、凍結胚移植周期ともに加齢の影響がみられ、前者では移植時の高E₂/P₄値、後者では卵巣steroid投与周期に低下がみられた。

432 IVF-ETにおける移植胚の質と個数および着床期子宮内膜所見と妊娠率についての検討

琉球大、

宮城博子、神山 茂、照屋陽子、宮良美代子、
伊波 忠、正本 仁、稲福 薫、東 政弘、
金澤浩二

〔目的〕 移植胚の質と個数および着床期子宮内膜がIVF-ETの妊娠率におよぼす影響について検討した。〔方法〕 88.2-95.7にIVF-ETを施行した374例1066周期を対象とした。IVF-ETは、short/long protocol刺激による通常の方法にて施行した。刺激前周期の着床期に子宮鏡により内膜の腺開口像 (点状・斑状・リング状・消失) と血管発達像 (軽度・中等度・高度) を評価し、リング状腺開口に中等度・高度血管発達像をみるものを良好、その他を不良とした。移植胚の質の評価は、受精卵の卵割に大小不同がなく、fragmentationが1/3以下を良好分割卵 (Cf)、その他を不良分割卵 (CF)、および2前核卵 (PN) に分類した。臨床的妊娠率を子宮内膜所見、移植胚の個数、質別に比較した。〔成績〕 ①全体としての移植胚個数別の妊娠率：1個 (7.4%)、2個 (7.5%)、3個 (24.2%)、4個 (22.1%) であり、3個以上で有意に高かった ($P < 0.01$)。なお、各個数間において、Cfの占める割合が多いほど妊娠率は高い傾向にあったが、有意差はなかった。次に、②同質胚3個以上の妊娠率：Cf (32.5%)、PN (18.7%)、CF (5.9%) でありCfで有意に高かった ($p < 0.05$)。③同質胚の移植と内膜所見について：CfとPNでは内膜良好、不良にかかわらず移植胚3個以上で妊娠率は有意に高かった。CFでは内膜良好の場合3個以上では有意差なく、4個以上で有意に高い妊娠率であったが、内膜不良の場合には妊娠率は低く、個数による有意差もなかった。〔結論〕 IVF-ETでは移植胚の質と個数が妊娠率に関与する。また、不良分割卵の移植では子宮内膜の条件が妊娠率に関与することを指摘した。